

平成30年6月8日

各 位

東京都中央区日本橋浜町三丁目21番1号
株式会社建設技術研究所
代表取締役社長 村田和夫
(コード番号 9621 東証第一部)

問合せ先 取締役常務執行役員管理本部長 渡邊 宏一
電話 03-3668-0451

特別損失の計上および通期業績予想の修正について

当社は、平成30年5月15日付で開示したとおり、平成30年6月8日を期限として平成30年12月期第1四半期報告書の提出期限の延長申請の承認を受けておりましたが、申請にいたった当社の非連結子会社である武漢長建創維環境科技有限公司（中国 武漢市、以下「武漢長建」という。）における経理処理を精査し、下記のとおり特別損失の計上および通期業績予想を修正することにいたしましたのでお知らせします。

株主・投資家の皆様をはじめ関係者の皆様に、ご迷惑とご心配をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

記

1. 特別損失計上の時期

平成30年12月期第1四半期

2. 特別損失の内容

関係会社出資金評価損	50百万円
貸倒引当金繰入額	91百万円
合 計	142百万円

3. 特別損失の計上の経緯

武漢長建における経理処理を精査したところ、以下の点が確認された。

① 売上原価の計上漏れ

売上計上後に追加的に発生した原価および受託契約を見込んで着手した原価のうち、成約可能性の懸念が生じたものについて、未成業務支出金から売上原価への振替を行っていなかった。

② 売上高の誤計上

売上計上済みの受託業務について、請求書の再発行にともない、再度売上を計上していた。

③ 貸倒引当金の計上漏れ

回収可能性が懸念される売上債権について、貸倒引当金を計上していなかった。

④ その他

将来の赤字が見込まれる受託業務について、業務損失引当金を計上していなかった。

これらを武漢長建の財務諸表に反映させたところ債務超過となったため、当社の投資その他資産に計上された武漢長建の関係会社出資金の全額を関係会社出資金評価損として計上した。また、武漢長建への当社の貸付金全額に対して貸倒引当金繰入額を計上した。

4. 通期業績予想の修正（平成30年1月1日～平成30年12月31日）

(1) 連結業績

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	58,500	2,900	2,950	1,800	127.29
今回修正予想 (B)	変更なし	変更なし	変更なし	1,700	120.22
増減額 (B - A)	—	—	—	△ 100	
増減率 (%)	—	—	—	△ 5.6	
(参考) 前期連結実績 (平成29年12月期)	49,301	2,420	2,500	1,615	114.22

(2) 個別業績

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	37,000	2,600	1,650	116.69
今回修正予想 (B)	変更なし	変更なし	1,550	109.61
増減額 (B - A)	—	—	△ 100	
増減率 (%)	—	—	△ 6.1	
(参考) 前期実績 (平成29年12月期)	35,440	2,643	1,609	113.81

以上